

## 日野川水系大規模氾濫時のタイムライン 第3回検討会議事概要

日時：平成30年3月27日(火)13:30～16:30

場所：鳥取県西部総合事務所（2F）講堂

### 【出席者】

- ・出席者名簿参照

### 【議事概要】

進行：岩田副所長

1. 第2回検討会の振り返り（説明：日野川河川事務所 大元事業対策官）
2. 検討会の進捗と位置づけについて（同上）
3. タイムラインの概要について（同上）
4. ワーキング（全体進行：パシフィックコンサルタンツ 飯田）
  - ワーキングの進め方
  - グループ（機関・同時業者）で行動項目の役割分担（「いつ」「誰が」「誰と」実施するか）を確認
    - ・ これまでの検討会で抽出し、機関別に整理されていた防災行動項目が統合された日野川水害タイムライン（素案）を使用して、グループで全ての行動項目を読み合わせ、役割分担に漏れないように記号を付ける（確認する項目は第2階層まで、但し重点行動項目については第3階層まで）
    - ・ 変更や他機関への依頼事項・確認事項があれば付箋に記録
    - ・ 大まかな所要時間を確認し、タイムラインレベルの妥当性を確認
  - 全体でタイムライン（素案）の流れを確認し、意見交換を実施
    - ・ タイムライン（素案）を使用し、タイムラインレベルに沿って全体で各機関の行動の流れを確認
    - ・ グループワーキングで挙げられた各機関の役割に関する変更点や他機関に依頼・確認したいことを報告
5. 講評
  - 鳥取大学 梶川准教授
    - ・ これまでに抽出してきた防災行動項目は700項目ほどであり、それがタイムラインとして収束に向かっている。今後はさらなる細かい情報共有等が必要となる。
    - ・ タイムラインは実際に運用していく中でブラッシュアップしていくことが重要である。
  - 鳥取大学 黒岩教授
    - ・ タイムラインの立ち上げやレベル移行の際には各機関への周知が重要であり、そのスタートは市町村が切り、その後他機関との共有を行うことが望ましい。但し、レベルの切り替えは同一の基準で各機関が準備しておく必要がある。

- ・ ワーキングを通して、避難ルートや交通機関の通行止め状況等（どのように判断しているかも含めて）の情報提供依頼の声が多く多く上がっていた。その他、ゴムボートの保有状況など細かい情報提供依頼も出ており、このような各機関が持っている、もしくは提供できることを全機関で共有していく必要がある。
- ・ 災害時には情報共有が非常に重要であり、例えば報道機関に全ての情報を集めて発信するなど情報集約・周知を徹底することで各機関の行動につながっていく。
- ・ 今後はタイムラインの読み合わせなどでブラッシュアップし続けることが大事である。そのような場で各機関から話題提供（各機関でできることなど）をしてもらえると良い。
- ・ 読み合わせ以外やまち歩き、被災シナリオを想定した訓練などを実施することが望ましい。

## 6. 岩田副所長より

- 次回は4月の開催となり、各機関で人事異動などが想定されるので、そのような場合には引継をお願いしたい。その際、タイムラインの700項目全てを引き継ぐのは大変なので、タイムラインダイジェスト版をぜひ活用してもらいたい。ダイジェスト版ではレベルの概況とそれぞれの機関の動き、必要な情報、取るべき対応が俯瞰できるようになっている。

## 7. その他（説明：日野川河川事務所 大元事業対策官）

- 今後のスケジュールについて  
第4回検討会は4月27日（金）13:30～16:30に米子コンベンションセンターにて開催予定  
内容：タイムライン読み合わせによる行動項目の確認
- 第4回検討会事前作業の依頼（詳細は後日改めてお知らせ）
- 完成式は5月を予定
- 質疑応答
  - ・ タイムラインが見づらい。項目に対する機関の役割を確認するときに見易くうように工夫してほしい。
  - ・ 自機関を左に寄せる、文字を大きくするなど見易さを改善してほしい。